

6 千葉都心地区

■地区の概要

位置づけ (立地適正化計画)	都心	
面積 (促進地区)	607.0ha	
旅客施設 (3000 人/日以上) 乗降客数	JR 千葉駅	216,242 人 (平成 30 年度)
	JR 東千葉駅	5,136 人 (平成 30 年度)
	JR 千葉みなと駅	34,382 人 (平成 30 年度)
	JR 本千葉駅	23,210 人 (平成 30 年度)
	京成千葉駅	29,174 人 (平成 30 年度)
	京成千葉中央駅	18,322 人 (平成 30 年度)
	モノレール千葉みなと駅	15,865 人 (平成 29 年度)
	モノレール市役所前駅	4,645 人 (平成 29 年度)
	モノレール千葉駅	25,466 人 (平成 29 年度)
バス便数	千葉駅東口	1,179 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉駅西口	150 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉駅北口	2 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉みなと駅	102 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉みなと駅西口	38 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	本千葉駅前	46 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉中央駅	29 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉中央駅西口	18 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
	千葉中央駅東口	18 (本/日)・片道 (上下線平均) (2017 年)
生活関連施設数	99 施設	
生活関連経路延長	約 24,810m	
500m 圏人口	5,568 人	※JR 千葉駅を中心に 500m 圏の範囲で算出 (2015 年国勢調査 4 次 (500m) メッシュ)
500m 圏高齢者数	1,068 人	
500m 圏高齢化率	19%	
従前の基本構想からの 主な変更点	・ 東千葉駅東側の施設 (病院・公民館等) を含むよう地区拡大	

※JR の乗降客数は乗車人員公表値を 2 倍した値 バス便数は千葉市立地適正化計画データより

■地区の特徴と課題

千葉都心地区は、駅周辺の人口が促進地区のうちでも平均的で、高齢化率が比較的低い地区です。駅周辺の土地利用は商業・事務所系となっており、市内で最大の都市機能誘導区域が設定されています。千葉駅から県庁周辺、市役所からケーズハーバー周辺に、主要公共施設、文化施設、病院、大規模店舗、宿泊施設などが集積しています。

JR 千葉駅をはじめ JR 線 4 駅、京成線 3 駅、モノレール 7 駅、旅客船ターミナルの 15 の旅客施設が立地し、そのうち 9 施設が 3000 人以上/日の乗降客数となっています。

JR 千葉駅は、市内で乗降客数が最も多い駅です。バス便数も最も多くなっています。

駅や道路、主な公共施設は基本的にバリアフリー化され充実していますが、一部、歩道上の勾配や視覚障害者誘導用ブロックの劣化、施設間や施設内の案内誘導等、移動の連続性が十分ではない状況も見受けられ、経路・施設の一体的なバリアフリー化のさらなる推進が求められます。また、千葉市の中心として都市整備は一定レベルの水準に達している中で、情報提供、案内誘導、心のバリアフリーの充実などソフト施策の充実が図られることが期待されています。

地区内では駅周辺の再開発事業や新庁舎整備、千葉公園の再整備等に向けて検討が進められており、これらの取組みと連携しバリアフリーのまちづくりの充実が図られることが期待されます。

■バリアフリー方針

- 駅から主な生活関連施設間の歩行環境の向上を図ります。
- 関連するまちづくり事業等に合わせた連続的・一体的なバリアフリー化を図ります。